



牛に虐げられて 馬がだんく減る

統計に現はれた本縣の畜産

昭和九年末における本縣の畜産(牛、馬、豚、綿羊、山羊)飼養戸数は牛一萬九千五百八戸、馬四萬二千九百五十三戸、豚三萬五千四百七十三戸、綿羊五十七戸、山羊一千七十四戸で前年に比し牛は一千二百十二戸(〇割七分)豚は二千四十三戸(〇割六分)綿羊は十七戸(四割三分)山羊は三百十七戸(四割二分)を孰れも増し、古來最も吾人に親みを持つ馬だけが一千六百二十九戸(〇割四分)を減じた、その飼養頭数は牛二萬一千四十九頭、馬四萬五千三百二頭、豚五萬五千九百六十七頭、綿羊百十九頭、山羊一千五百十八頭で前年に比し牛は一千二百九十四頭(〇割七分)豚は三千四百七十四頭(〇割七分)綿羊は五頭(〇割四分)山羊は四百六十九頭(四割五分)を孰れも増し馬は一千六百九十頭(〇割四分)を減じてゐる、耕牛が盛んになつた反響と見てよからうか。

又昭和九年中に於ける生産数は牛八百八十頭、馬一千二十頭、豚三萬六千五百十七頭、綿羊四頭、山羊三百一十一頭にして前年に比し牛は五十九頭(〇割七分)豚は二千九百六十七頭(〇割九分)山羊は百頭(四割七分)を孰れも増し馬は七十七頭(〇割七分)綿羊は十五頭(七割九分)を孰れも減少した。曾て本縣の産駒は相當に評判され大正九年の全盛期時代には生産二千余を數へ、一頭の價四五百圓を稱したるものあり、年産二十六萬圓にも達したといふに、今日では僅かに六萬圓内外に過ぎない、要するに馬の値は下る、アベコベに生産費が高むといふので漸次頽勢を辿るにいたつたものらしいが、資質は非常に良くなつてをり、頽勢も挽回しつゝあるやうだ。

各郡市別狀況左の如し

郡市名	飼養戸數					飼養頭數				
	牛	馬	豚	綿羊	山羊	牛	馬	豚	綿羊	山羊
水戸	二〇	三〇	六	一	二	三三	四八	三〇	一	二
東茨城	二、六〇〇	二、八四〇	三、三三三	一	一九	三、〇四四	二、八七三	五、三九六	二	三
西茨城	四四	三、二一九	一、〇六六	四	五三	四、八五五	三、二三七	一、五九八	三	六
那珂	一、〇七六	二、九七六	三、九三三	六	八九	一、七九九	三、〇三三	五、八六二	九	二七
久慈	四三三	五、八六八	一、〇五五	一五	七四	四、九三三	一、七七一	一、七七一	二〇	一四
多賀	三三	三、三三三	一、三六一	一	一四	二、六一	四、三三三	二、五三三	一	六〇
鹿島	二、〇〇八	二、九六九	四、九〇八	一	二九	二、〇六六	三、〇三三	五、三三三	一	四〇
行方	一、三三三	二、二二二	一、二二二	三	二二	一、七二二	二、二二二	一、八〇一	八	一八
稲敷	三、一〇一	二、二二二	二、五八五	一五	六六	三、三三六	二、二二二	四、四四七	二五	四九
新治	一、五〇六	四、八八五	二、二二二	五	二六	一、六九九	四、九二〇	四、三三三	一八	一五
筑波	一、〇〇〇	二、三三三	二、三三三	一	六六	一、三三三	二、三三三	三、三三三	二	一四
眞壁	七三三	四、〇〇〇	三、三三三	一	三三	四、〇〇〇	三、三三三	五、三三三	一	三三
結城	一、五八三	二、二二二	三、三三三	三	三三	一、七二二	二、二二二	三、三三三	三	三三
猿島	一、三三〇	二、二二二	三、三三三	一	一七	一、三三三	二、二二二	三、三三三	一	二〇
北相馬	九七七	一、三三三	一、三三三	四	一七	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一〇	三三
昭和九年末計	一、九、五〇八	四、二、九七六	三、三、三三三	五五	一、〇、四〇〇	一、〇、四〇〇	三、三、三三三	五、三、三三三	二、九	一、五、八
昭和八年末計	一、八、二二六	四、〇、五二二	三、〇、〇〇〇	四〇	七三三	一、九、七二二	三、三、三三三	五、三、三三三	二四	一、〇、九